

■ 英会話上達のためのアドバイス

① 英会話上達のための心構え

1. 英語は外国語なので最初から正確に話せるわけがないと割り切り、間違いを恐れずどんどん使い、英語でのコミュニケーションを楽しみましょう。間違いや不確かな点はそのまましておくと進歩がありませんので、必ずあとで調べましょう。正しい言い方が分かったら何回か音読するとより記憶に残ります。
2. 相手の言うことが分からなかったらあいまいな返事をするのではなく、必ず“I beg your pardon?”と言ってゆっくり話してもらいましょう。いいかげんに返事をするのは大変失礼です。
3. 欧米人は eye contact（視線を合わすこと）を保ちながら会話をするのが普通ですので、しっかりと相手の目を見て、英語に自信がなくても大きな声ではっきりと話すように努力しましょう。
4. 最初からしゃれた言い回しや複雑な構文を使って話そうとするとつまってしまうので、中学英語のような単純な構文、単熟語から始め、徐々に難しいものも取り入れていくようにするとよいでしょう。
5. 何を話すか、どのように話したら相手に分かりやすいかをきちんと頭の中で整理してから話すようにしましょう。また、英語では結論を先に言って、理由や詳細は後で述べますので、その点にも注意しましょう。
6. 英語はストレスが比較的等しい間隔でおこる強勢的リズム（stress-timed rhythm）の型をとる言語なので、英語を話す時には、日本語

を話す時のように平坦な話し方にならないように心掛けましょう。一般に英語では名詞、動詞、形容詞、副詞など情報をたくさん持っている語は強く発音し、代名詞、冠詞、前置詞や接続詞などは通常弱く発音します。

② 自分の意志をはっきり伝えよう。

英語圏の国民は幼少の時から、自分の意見をはっきりと述べるようにとしつけられるのでクラスメートや友人や家族とよく議論をします。一方日本人は“和の精神”や“思いやり”を尊ぶよう教育されるので、できるだけ議論を避け、他の人と対立しない、周囲を傷つけないように心がけます。そのため、このような違いを認識せず、欧米社会でも日本にいる時のようなあいまいな態度を取り続けると、主体性がない人と評価されたり、誤解を招いたりしますので十分に気をつけて下さい。外国に出発する前から、日本語で意思表示する場合も、YesかNoをはっきりさせ、同時にその理由を述べる練習をするとよいでしょう。

③ 愛称

海外の映画やテレビを見ると気づきますが、英語圏の人々は互いに相手の愛称や名前を呼び合いながら会話を進めます。例えば、名前や愛称は“How are you, Bob?”や“Michael, do you have any questions?”などのように文の前後にさりげなくつけます。そうすることにより、距離感が縮まり親密度が高くなりますので、あなたもぜひ実行して下さい。最初は少し照れくさいかもしれませんが、意識してそのようにしているうちに抵抗なく出来るようになります。

日本人の名前の中には、欧米人にとって発音しにくいものがありますので、その場合には My name is Hirofumi, but if it is difficult to pronounce, just call me "Hiro". 「私の名前は博文ですが、もし発音するのが難しかったら、ただ“ヒロ”と呼んで下さい。」のように自分の呼んでもらいたい愛称を伝えるとよいでしょう。また、相手の名前が初めて聞く耳慣れないものであったら、自信を持って呼びかけられるように “Would you spell out your name?” 「あなたの名前のつづりを言ってくれませんか。」や “Would you write down your name?” 「あなたの名前を書いてもらえませんか。」などと言って確認しましょう。参考までに愛称の例をいくつか挙げておきます。

(男性名)

Gregory → Greg

James → Jim, Jamy, Jimmy

Robert → Bob, Robby, Rob

Thomas → Tom, Tommy

William → Bill, Billy, Will

(女性名)

Catherine (Katherine) → Cathy (Kathy), Kitty

Elizabeth → Beth, Betty, Liz, Lisa

Pamela → Pam

Rebecca → Becky

Susan → Sue, Susie

④ カタカナ英語について

現在の日本では、英語をカタカナ語に直した「カタカナ英語」や英語の単語は使っているが不自然な英語 [NEW OPEN! 本来は NEWLY OPENED! (新装開店) など]、「変則英語」が巷に氾濫しています。しかしこれらの「日本式英語」は海外では通用しませんので、普段か

ら英語ではどのように言うのかという問題意識を持ち、正しい英語の言い方を辞書や本で調べたり、ネイティブの先生に尋ねるなどして覚えるよう努めて下さい。カタカナ語とそれらの正しい言い方をいくつか例示しますので比べてみて下さい。

カタカナ語	正式英語
アイスコーヒー	iced coffee
アルバイト	part-time job
エアコン	air-conditioner
ガソリンスタンド	〈米〉 gas station 〈英〉 petrol station
ゴロ	grounder
スト	strike
ネック	bottleneck (障害)
フライドポテト	〈米〉 French fries 〈英〉 chips
フロントガラス	〈米〉 windshield 〈英〉 windscreen
ペーパーカンパニー	bogus company (いかがわしい会社)

上記のようなカタカナ語に加え、英語をカタカナ語に変えたもの（インターネット、マクドナルド、オクラホマなど）も英語とは発音もアクセントも異なりますので、不確かなものは辞書で調べ、正しい発音とアクセントを覚え直しましょう。

留学をしている間、時には勉強をしたくない日もあるかもしれませんが、留学は自己との厳しい戦いですので、自分をコントロールして頑張ってください。自分をコントロールできない人には留学を成功させることはできません。せっかく留学したからには、「自分はこれだけ勉強した」と自負できるくらい勉強してください。そうすれば、留学後の人生において困難に直面した時でも、留学していた時に養った克己の精神で困難を乗り越えることができます。

■著者略歴

永野真司（ながのしんじ）

米国ウエストバージニア大学卒、国際基督教大学（ICU）大学院修士課程修了（英語教育専攻）。成蹊大学講師、茂原英語学院副学院長。

著書「英検2級合格770題」（共著、三修社）ほか。



West Virginia University での著者